

氏名	米 花 正 晴
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1681 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和61年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	弁膜症における心機能及び心予備能と心筋変性度との関係に関する研究 —— 心機能、心予備能と心筋変性度との関係 ——
論 文 審 査 委 員	教授 折田薫三 教授 中山 沃 教授 原岡昭一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

術中、左室心筋を採取しえた V₀ 群25例、MS 群25例に対し、その心筋変性程度により保全群（Ⅰ群）、変性群（Ⅱ群）に区分し、術前術後の心機能推移ならびに動的運動負荷による心予備能を各群にて比較、検討した。

1. 術前安静時心機能では、MS 群 EDVI および ESVI がⅡ群で有意に高値を示す以外、Ⅰ、Ⅱ群間に有意差は認めなかった。しかし、運動負荷を行う事により、Ⅱ群心予備能の不良さが明らかにされた。

2. 術後平均1年における安静時心機能において、V₀ 群、MS 群ともにⅠ群の改善度はⅡ群に比しきわめて良好であった。さらに運動負荷を行う事により、Ⅰ、Ⅱ群間は明瞭に区分され、弁病変修復後もⅡ群の心予備能は不良であった。

3. 心筋因子が術後心機能、心予備能に大きく関与している事が判明した。

4. 心筋収縮予備力である % Δ F.S と心筋変性度とは、術前後ともにきわめてよい負の直線相関を示した。

5. 術前運動負荷を行い、その心筋収縮予備能を評価する事により、心筋変性度、術後改善度、術後心予備能を予知できる可能性が得られた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

弁病変の修復、置換にもかかわらず心機能の改善しない症例がある。本研究者は後天性弁膜症50例を対象に、心筋変性の程度、術前後の心エコー図による左心機能と心予備能の比較検討より、術前運動負荷下での % Δ F.S が心筋変性度、術後改善度、術後心予備能の予知に

有用なことを明らかとしている。弁置換の適応を決める上での極めて重要な知見であり、本研究者は医学博士の学位を得るに十分であることを認める。